

JCS2019 参加報告

華岡青洲記念心臓血管クリニック 山口隆義

皆様こんにちは、華岡青洲記念心臓血管クリニックの山口です。今年も、JCSに参加してきました。JCSとは日本循環器学会で、今回で83回目の学術集会となります。数年前からJSRTとのチーム医療セッションが設けられるようになり、その演者や座長という立場で参加させて頂いておりました。今年は一般演題の座長の役割を頂いての参加でした。

実は、日循の前日に **Beyond Angiography Japan** という会が毎年開催されております。今年で24回目という事ですが、日循に参加するようになって、この会にも参加するのが1つの楽しみとなっております。循環器のイメージングに特化した会で、日本心臓血管放射線研究会や日本心臓血管画像動態学会と同じく、私のツボにはまる会です。今年はやはり **FFRCT** が話題の1つになっておりました。他には、**RFR** を始めとする **FFR** に変わる **resting index** や、**NIRS IVUS** なども話題でした。

さて、JCSの方ですが、今年はパシフィコ横浜での開催で、JRCとほぼ同じ規模でした。循環器とはいえ多岐にわたる内容なので、選択に悩む訳ですが、まず始めは、前日からの繋がりもあり **FFRCT** のセッションから参加しました。施設基準がかなり厳しく、市中病院で使用するのは難しい訳ですが、この点に関しては「**FFRCT** 導入の効果を検証する必要があるため」と座長の先生から説明がありました。しばらくはこの状況が続くようですね。その後、チーム医療セッションに参加し、ランチョンでは **WATCHMAN** を勉強しました。午後からはオープニングセレモニーの後、日本心臓財団設立50周年という事で記念シンポジウムを拝聴しました。そこでは、虎ノ門病院の院長である山口徹先生から、「当初の医師は聴診器と心電図だけで心臓の診療を行っていたので、心電図専門医師であった。」「今で

は、CTで冠動脈を評価できるすばらしい時代。」とのお話があり、50年間の循環器診療の進歩を振り返っておられました。わたしもこの期間の約半分を見てきた訳で、とても感慨深い気持ちになりました。

2日目は、「循環器疾患における画像診断、放射線科との連携」という興味深いセッションに参加。その後、私が座長を担当するチーム医療セッションでお仕事をしました。循環器学会ならではの演題群で、皆さん、目の付け所が良いですね。ランチョンでは、TAVIの勉強をして、午後からは「SFA/BKの血行再建は外科か、内科か？」という気になるセッションへ参加しました。

さて、いよいよ最終日。朝早くに横浜の港RUNをしてから、チーム医療セッションに参加。午後にはJSRTとのジョイント企画である「インターベンション治療における新しい画像支援技術」に参加しました。様々な画像支援に関して、循環器医師および診療放射線技師の双方から発表がありました。全体的に連携がとても大事という事でしたが、私の方からは循環器医師が画像を読む事が多くなっているため、画像診断特有のアーチファクト等の情報伝達や知識の共有はどのように行っているのかを質問させて頂きました。これって、大事ですね。

という訳で、真面目に3日間参加していた事が伝わりましたでしょうか？循環器に興味ある方の参加をお待ちしています。



Vitreaの前で、CTアプリ：中野翔太さんとのツーショット。(キヤノンブースにて)



RUNの朝、桜が満開でした！